

評価項目・具体的方策(案)について

【運営方針1】教育カリキュラムの充実

【評価基準】A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】卒業後の就業、就職等に向けた教育体制づくり

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
(1)国・県の重点施策を踏まえた学科及び講座の配置	1 林業経営学科の円滑な運営	① 林業経営学科の円滑な運営(継続) 設置2年目となった林業経営学科について、現場で必要とされる実践的で専門的な知識・技術や資格の習得により「やまがた森林(モリ)ミクス」を担う林業の次世代リーダーの育成を図る。	・森林・林業の科目分野は幅が広いことから、林業経営学科では、計画的な講義・実習による専門知識の習得を図った。また、現場で必要な実践的技術の習得を図るため、森林組合等の協力を得ながらチェーンソー作業や高性能林業機械操作など、実習を重点的にを行い、卒業後に現場作業に必要な資格も計画的に取得した。さらに、樹木医(補)、航空レーザー測量等の幅広い森林・林業の専門知識の習得に努めた。	1・・・C 概ね計画どおり運営できた	・学生は、森林・林業の専門知識及び基礎技術から実践技術まで、計画的に習得している。高性能林業機械等、林業現場に必要な各種資格も計画的に取得した。今年度卒業する第1期生の進路は、森林組合をはじめとする林業・木材関連企業や団体(林業関係8割、進学2割)への就職を中心に12月中に決定し、将来の林業担い手の育成が図られた。今後は、第1期生の2年間の教育実績を踏まえ、課題を整理し、次年度以降の改善対策を検討する。
	2 新たな加工品の商品化:1点	② 6次産業化に関する講座の実施(継続) 6次産業化の推進に向けて、1学年の全学生を対象に専門共通科目として「6次産業化」を設定し、制度や加工技術等について幅広く学習する。	・これまで、複数の専門講師にお願いしたところ、講義・演習内容に重複があったことから、今年度は大学教員を「6次産業化」の講師に迎え、専門的な知識の習得に取り組んだ。	2・・・B えだまめの新商品開発 ・シフォンケーキ ・ケークサレ ・ロールケーキ	・講義や演習を通して、食品加工の基礎、関連法律や表示、食品衛生、施策・制度など、6次産業化に取り組む上で必要となる体系的な知識の習得に努めた。次年度も、継続して実施する計画である。
	3 ASIAGAP Ver.1の認証取得	③ 農産加工技術の習得(継続) モッツアレラチーズの製造実習を行い、多様な農産加工の実習を拡充するとともに、試食会を開催して商品の改良を図る。また、商品企画、特産品開発、商品パッケージ等についても学習する。	・1年生を対象にしたモッツアレラチーズ製造実習を開催し、知識・技術の習得に努めた。また、2年生では、卒論で特徴ある牛乳製造と乳製品加工をテーマに、これまでの製造技術を生かしてカチョカヴァロチーズの製造にも取り組んだ。 ・農産加工経営学科では、マーケティング手法を用いた加工品開発として、商品コンセプト作成、地域特産物を利用した商品企画、商品の試作・評価に取り組み、グループワークにより、えだまめを原料にした新商品を開発した。	3・・・B ・ASIAGAPVer.1の認証取得(稲作経営学科、品目:米) ・農場HACCP推進農場の指定(畜産経営学科)	・モッツアレラチーズについては、食味等に関するアンケート調査を実施し、評価に基づいた改善に取り組んでいる。今後は乳製品製造施設(チーズ及びヨーグルト)を整備するとともに、職員がチーズ製造研修を受講し、これまで蓄積した技術を活用しながら品質向上に努める。 ・えだまめの新商品は、農大市場で販売し、好評だった。えだまめは、県内各地で在来系統の栽培や産地化が進んでおり、地域特産品となっていることから、今後、多様な加工品製造に結び付けていく。
		④ ASIAGAPVer.1及び農場HACCPの認証取得(新規) 国際水準の農業生産工程管理手法である「GAP」の研修への参加やコンサルタントの指導を受け、認証取得を目指す。さらに、畜産経営学科は、飼養衛生管理向上の取組みである「農場HACCP認証」の取得を目指す。	・これまでのGAPの学習では、専門家を講師に迎え、認証制度の概要など基本的知識に関して学んできたが、今年度は、米を対象として、GAPコンサルタントから、学生、職員が管理点と適合基準、圃場・施設の現状把握と改善、認証審査の仕組みや手順、認証に必要な書類作成等について講義、演習を通して学んだ。 ・畜産経営学科では、農場における飼養衛生管理である「農場HACCP認証」について実践を通して学んだ。		・GAPコンサルタントによる実践的な指導・アドバイスを通して、管理点や適合基準に基づき手順を構築しながら自己点検と改善を行ない、認証に向けて取り組んだ。この結果、平成29年12月に「ASIAGAPVer.1」の認証を取得した。次年度は、果樹経営学科で認証取得を目指す。 ・畜産経営学科では、平成29年9月に「農場HACCP推進農場」に指定され、近年中の認証取得を目指している。
(2)実践教育を重視した学習体系やインターンシップの充実	先進農林業者等体験学習等の評価 :良好との評価80%	① 先進農林業者等体験学習等の実施(継続) 先進農林業者等体験学習は、1学年で前期と後期に10日間ずつ実施し、先進的農林業者、農業法人、農業・食品関連企業、森林組合等において、実践的な技術等を学び、優れた経営感覚に触れる。また、後期の体験学習では、就職希望学生(法人就農も含む)をインターンシップに派遣し、実践教育の充実を図る。	・1年生全員が前期・後期とも10日間の先進農林業者等体験学習を行った。前期の受入は先進的農業者と森林組合等に依頼し、後期の受入は進路志望等に合わせ、先進的農業者をはじめ農業・食品関連企業、森林組合等の林業事業体に依頼した。	B 先進農林業者等体験学習の受入れ農林業者等の回答で5段階中4以上上の評価 (評価基準 5:きわめて良い、4:良い、3:普通、2:やや劣る、1:劣る) :(前期)86% (後期)85%	・受入れ先からの学生に対する評価は概ね良好で、非農家出身学生が増加しているため、当研修は必要性が高いとの声があった。しかし、一部学生の研修態度について指摘があったため、改善するよう指導する。今後も引き続き、関係機関の協力を得ながら学生が希望する受入先の選定に努めるとともに、後期はインターンシップも組み合わせ、進路確保につなげる研修を継続していく。
		② 2年生のインターンシップの導入(継続) 2年生において、就職希望及び就職希望学生(法年就農も含む)が高度な栽培技術や実践的な学習を希望する場合、インターンシップを実施する。	・農業法人への就職を希望する稲作経営学科と農産加工経営学科の3名の学生がインターンシップに取り組んだ。また、林業経営学科の4名の学生が森林組合でのインターンシップを行ない、現場での実践的学習に取り組んだ。		・「先進農林業者等体験学習」「農業法人との就職相談会」や「林業経営学科学生への会社説明会」等の開催を通して、学生が農林業者、農業法人、林業事業者等と接する機会を設け、インターンシップを希望する学生には積極的に実施をすすめている。
(3)組織や法人との連携強化による先進技術等の研修の充実	1 研修の実施回数:50回 2 林業関係の研修調査の実施:10回	① 先進経営者研究の実施(継続) 先進的経営に取り組む県内外の農業法人や農業・食品関連企業、林業事業者等の現地視察を行い、優良事例研修を実施する。	・1年生を対象に、「先進経営者研究」を実施し、先進的農業経営体2か所(環境制御によるトマトの大規模養液栽培、酪農家のQOLに配慮した牧場運営と大型化による共同型の酪農経営)と国内最大級の国産製材工場を視察した。	1・・・C 農業系学科の調査・研修の実施数:49回	・各学科の学習内容に関連する農業と林業の優良事例や最新の農林業の技術等を視察し、幅広い学習を実施することができた。来年度は、各学科単位で、より専門性の高い調査・研修を実施する予定である。
		② 学科毎の組織や法人と連携した研修の充実(拡充) 管内の優良法人等への視察研修を実施する。林業経営学科では森林組合等の協力を得て、高性能林業機械の操作等の研修を実施する。 また、新たに農業法人の代表からの講話を実施する(新規)。	・各学科において、先進的な農業者・農業法人や試験研究機関、青果・生花市場等への研修を実施した。最上広域森林組合及び金山町森林組合の協力を得て、実際の施業現場等において高性能林業機械等を使った実践的な作業実習を実施したほか、最上町内の林業事業者の協力を得て、植栽実習を実施した。また、管内の木材関係企業、きのこ生産者の協力を得て、林産関係の視察研修を行った。 ・非農家出身学生が増加していることもあり、農業法人代表からの講話を実施した。	2・・・A 林業経営学科の調査・研修の実施:30回	・各学科において、研修先を工夫して取り組んだが、今年度から果樹経営学科の今年度の新規科目である「温暖化対応果樹栽培技術論」は、庄内産地研究室において、本校では栽培していないカニツ(スダチ、カボス等)や甘柿などの特性を学ぶことができ有意義であった。 ・林業経営学科では施業現場や木材製品、きのこの等の生産現場での研修を通して、実践的な知識、技術を習得した。今後は、森林組合ほか、林業・木材関連企業等、管内の関係団体や企業の協力を得て、学生の幅広い知識、技術の習得を図る。

<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 林業経営学科の学習内容は多岐にわたるが、学生の知識、技術習得や資格取得には計画どおりに取り組み、全員の進路を確保することができた。また、新設講座である「6次産業化」では、専門の講師から体系的に学ぶことができた。さらに、「ASIAGAPVer.1」の認証取得と「農場HACCP推進農場」の指定を受けるにあたり、実践的な学習に取り組むことができた。次年度は他学科での認証取得を目指していく。 先進農林業者体験学習は、学生が先進的な農林業経営者に学ぶ機会であり、インターンシップは、学生が卒業後のより良い進路を選択する機会であるため、今後とも充実できるよう努める。 	<p>評価</p> <p>B</p>
---	---------------------------

<p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> GAP認証取得には林業経営学科でも取り組むべきである。→GAP認証制度では、林業は対象となっておらず、「森林認証制度」で持続可能な森林経営に関する規範を定めていることから、こちらの制度について学習していきたい。 林業経営学科での安全教育は大切である。→これまで大きな事故はないが、今後も安全確保には細心の注意を払っていきたい。また、先進農林業者等体験学習は、1年次の前期と後期に実施しているが、来年度、林業経営学科は、安全教育や技術習得の観点から、1年次後期と2年次前期の実施する計画である。 自己評価が低いのではないかと。→自己評価は、昨年度4段階評価であったが、今年度は「C評価:概ね達成」を評価の基準として、より細かく基準を設定して自己評価に取り組んだ。自己評価を作成するにあたっては、内部でも議論したところであるが、第三者の立場で客観的な評価となるよう努めたところである。 	<p>評価</p> <p>B</p>
--	---------------------------